

金属、プラスチックのリサイクルから一般・産業廃棄物の処理、中古品のリユースまで手掛ける総合リサイクル業の協同回収(三豊市)。障がい者を健常者と同様の基準で評価する賃金制度など働きやすい環境づくりに力を入れている。同社の創業理念や社風について、柴田正規代表(39)に聞いた。

1999年の創業時はトラック1台で各地を回ることから始まった。現在は県内20カ所にリサイクル資源の回収拠点「Ecoとステーション」を置くなどし、リサイクル業者はもろろん、一般の人が持ち込む電化製品や農機具、古鉄などの買い取り、引き取りを実施。適切に分類することにより資源の有効活用

きよつ午前11時45分〜西日本放送でオンエア

協同回収

(三豊市)



総合リサイクル業

約1・8畝と県内最大級の敷地でリサイクル資源の選別から保管まで行うEcoとステーション本部(三豊市詫間町)



■メモ 1999年に創業。リサイクルショップ「エコリッチ」は3月に高松市の田町店がオープンするなど県内5店舗で運営している。

人に地球に優しい仕組み

つなげている。

社員が物心ともに豊かな生活を送れる「家族愛の精神」を大切にしてきた。リーマンショックで鉄くず価格が大暴落した際には、雇用と経営、その一つが平等な賃金制度。

どちらを守るべきか相当悩んだ。それでも、社員を守るという創業理念を貫いた。

この経験から逆境に負けなシヨックで鉄くず価格が大暴落した際には、雇用と経営、その一つが平等な賃金制度。

社員59人のうち、身体、知的障がい者が21人を占めているが、障がいの有無に関係なく同じ基準で評価している。

例えば情報共有の項目は、「できる」と判断されれば3点、「優れた方法でできる」は4点、さらに「教えることができる、教えた人ができるよいうになる」と最高の5点になる。社員が教え合い、助け合い、成長を目指す社風が浸透してきた。

また、子育て世代の短時間労働や、65歳の定年後も希望すれば年齢の上限なく働ける制度を導入。このような取り組みが評価され今年、「第4回四国でいちばん大切にしたい会社大賞」で栄誉ある賞をいただいた。今後はリーマンショックのような大恐慌や自然災害が起こっても、絶対につぶれない会社、社員を守り抜く強い会社にしていく。